

# 令和7年度「全国学力・学習状況調査」の結果 －分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について－

区名 平野区  
学校名 大阪市立加美小学校  
学校長名 沖 直美

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、令和7年4月17日（木）に、6年生を対象として、「教科（国語・算数・理科）に関する調査」と「児童質問調査」を実施いたしました。

大阪市教育委員会では、保護者や地域の皆様等に説明責任を果たすとともに、より一層教育に関心をお持ちいただき、教育活動にご協力いただくため、各学校が調査結果や調査結果から明らかになった現状等について公表するものとしています。

本校でも、調査結果の分析を行い、これまでの成果や今後取り組むべき課題について明らかにしてまいりましたので、本市教育委員会の方針に則り公表いたします。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。

## 1 調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

## 2 調査内容

### (1) 教科に関する調査

- ・国語
- ・算数
- ・理科

### (2) 質問調査

- ・児童に対する調査
- ・学校に対する調査

## 3 調査の対象

- ・国・公・私立学校の小学校第6学年の原則として全児童
- ・大阪市立加美小学校では、第6学年81名

## 令和7年度「全国学力・学習状況調査」結果の概要

国語科では、平均正答率が67.0%で、全国（66.8%）と比較すると、僅かではあるが+0.2%と上回った。前回の調査と同一の児童ではないが、前回の調査（対全国-8.7%）と比較すると、かなり改善したことがわかる。

算数科では、平均正答率が59.0%で、全国（58.0%）と比較すると、僅かではあるが+1.0%と上回った。前回の調査（対全国-13.4%）と比較すると、かなり改善したことがわかる。

理科では、平均正答率が54.0%で、全国（57.1%）と比較すると、-3.1%下回っている。さらに、平均無回答率も、3教科ともに全国と比較しても約3%少なくなっている。

## 分析から見えてきた成果・課題

### 教科に関する調査より

[国語] 領域別正答率をみると、「C 読むこと」で改善が見られた。また、「記述式」では全国の正答率と比較すると、+9.1%上回っている。これらは、2年前より国語科「読むこと」を全学年で研究を行ったことが要因の一つと考えられる。学力向上支援チーム事業を効果的に活用してスクールアドバイザーの先生に継続的に指導していただいたことが、この成果につながったといえる。一方、「A 話すこと聞くこと」については、全国平均-2.1%となった。

[算数] 領域別正答率をみると、全体的に改善が見られた。特に、「C 測定」では全国比較+5.7%と大きく上回っている。しかし、「C 変化と関係」では、昨年度よりは向上しているが、全国平均-2.8%低くなっている。

[理科] 領域別正答率をみると、全ての領域において全国平均を少し下回った。特に、「生命を柱とする領域」では、全国平均-6.3%と大きく下回っている。また、「記述式」では、-4.5%と低かった。

これらの点から、日々の授業で自分の言葉で表現する学習活動を今以上に取り入れる必要がある。

### 質問調査より

「自分にはよいところがありますか」の肯定的回答の割合が85.5%（昨年度68.5%）であった。全国平均よりは下回ってはいるが、昨年度と比較すると自尊感情の高まりがみられた。

「学校に行くのは楽しいと思いますか」の肯定的回答の割合が90.3%（昨年度71.9%）であった。全国・大阪市よりも高く、大幅に改善された。

これらは、教職員・保護者・地域の方など大人が認めること、友達同士で認め合いをすることを大切にした学校教育を進めた結果、肯定的回答が向上したからだと言える。本校学校目標「子どもの笑顔のある学校」においても、これからも大切にしたい視点である。

しかし、「地域や社会をよくするために何かしてみたいと思いますか」の肯定的回答の割合が、全国平均（63.9%）と比べると、63.9%とかなり低いことが分かった。愛国心教育だけでなく、地域に根差した教育を進めていく必要がある。

## 今後の取組(アクションプラン)

### ○授業改善を行い、主体的に学ぶ児童の育成を図る。

- ・話し合いを取り入れた学習を行うとともに、国語科・算数科の基礎基本の知識・技能の向上を目指す。
- ・スクールアドバイザーの指導の下、「わかる・できる・楽しい」授業づくりを行い、児童が進んで発表したり、友達と考えを交流したりして、自己形成を図れるようにする。

### ○自他ともに認め合う心の育成を図る。

- ・教職員が児童の良い姿を称賛したり、児童同士の良好な人間関係の育成を行ったりする。
- ・人権教育の充実を図り、自分だけでなく友だちも思いやる心を育んでいく。

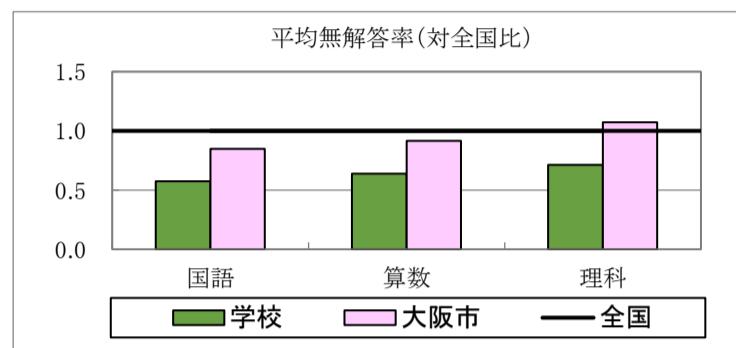
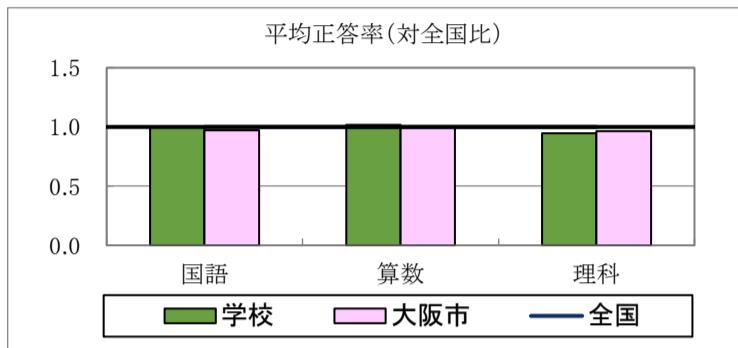
## 【 全体の概要 】

平均正答率 (%)

	国語	算数	理科
学校	67	59	54
大阪市	65	58	55
全国	66.8	58.0	57.1

平均無解答率 (%)

	国語	算数	理科
学校	1.9	2.3	2.0
大阪市	2.8	3.3	3.0
全国	3.3	3.6	2.8



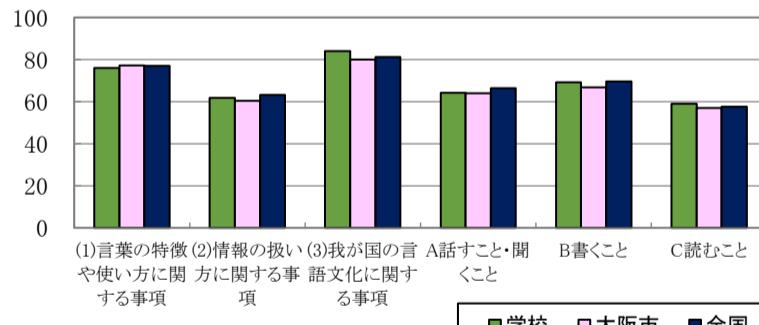
## 【 国 語 】

学習指導要領 の内容	対象 設問数 (問)	平均正答率(%)		
		学校	大阪市	全国
(1)言葉の特徴や使い方に関する事項	2	75.9	77.1	76.9
(2)情報の扱い方に関する事項	1	61.7	60.4	63.1
(3)我が国の言語文化に関する事項	1	84.0	79.9	81.2
A 話すこと・聞くこと	3	64.2	64.0	66.3
B 書くこと	3	69.1	66.7	69.5
C 読むこと	4	59.0	56.9	57.5

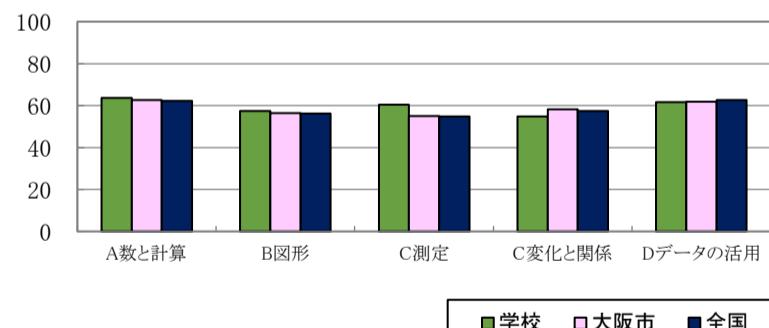
## 【 算 数 】

学習指導要領 の領域	対象 設問数 (問)	平均正答率(%)		
		学校	大阪市	全国
A 数と計算	8	63.7	62.7	62.3
B 図形	4	57.4	56.4	56.2
C 測定	2	60.5	54.9	54.8
C 変化と関係	3	54.7	58.2	57.5
D データの活用	5	61.7	61.9	62.6

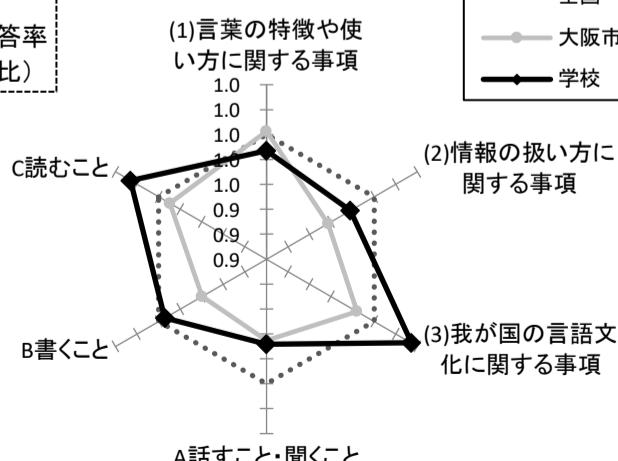
国語 内容別正答率(学校、大阪市、全国)



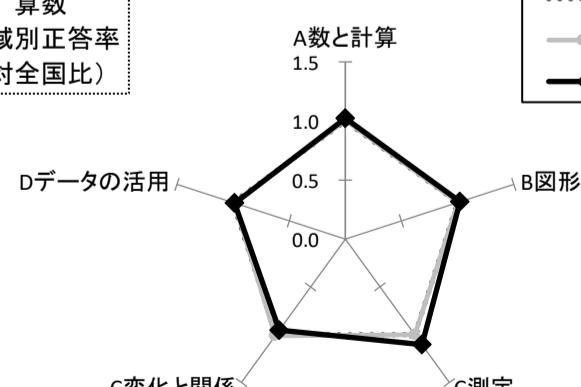
算数 領域別正答率(学校、大阪市、全国)



国語  
内容別正答率  
(対全国比)

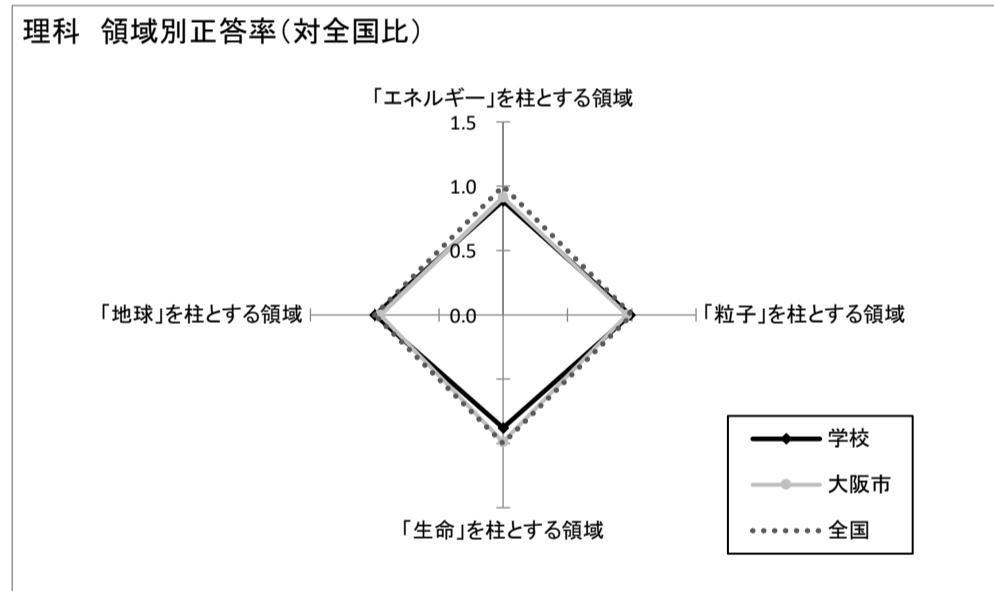
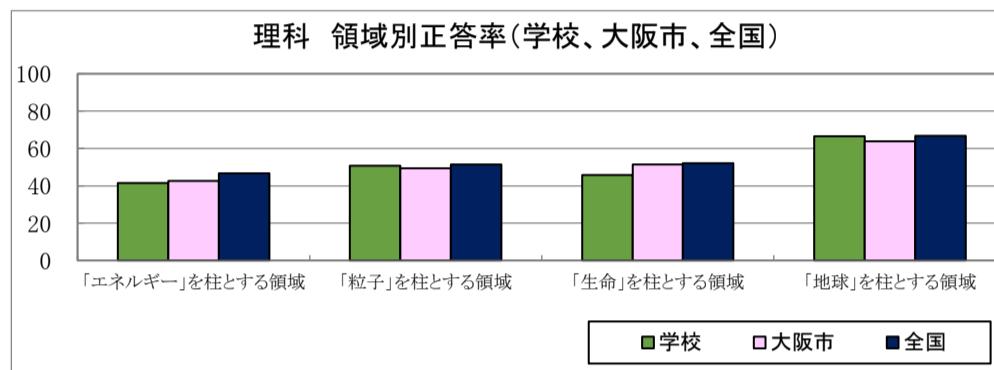


算数  
領域別正答率  
(対全国比)



## 【 理科 】

学習指導要領 の区分・領域	対象 設問数 (問)	平均正答率(%)			
		学校	大阪市	全国	
A 区 分	「エネルギー」を 柱とする領域	4	41.4	42.7	46.7
	「粒子」を 柱とする領域	6	50.8	49.5	51.4
B 区 分	「生命」を 柱とする領域	4	45.7	51.4	52.0
	「地球」を 柱とする領域	6	66.5	63.8	66.7



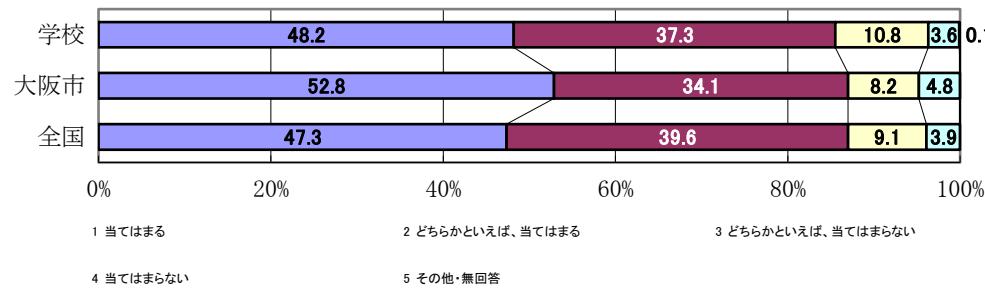
## 児童質問より

■1 ■2 □3 □4 □5 ■6 ■7 ■8

質問番号
質問事項

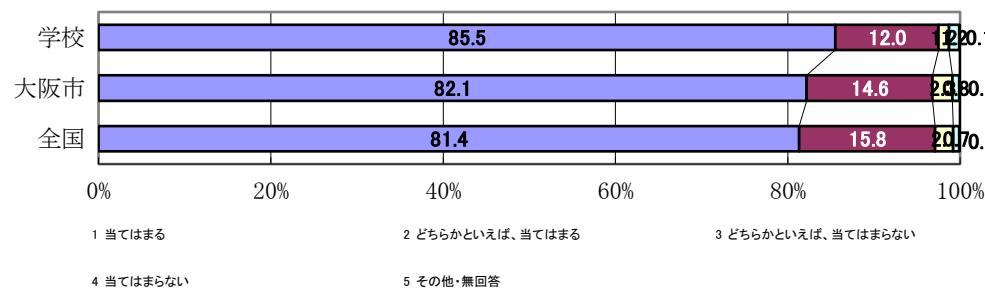
5

自分には、よいところがあると思いますか



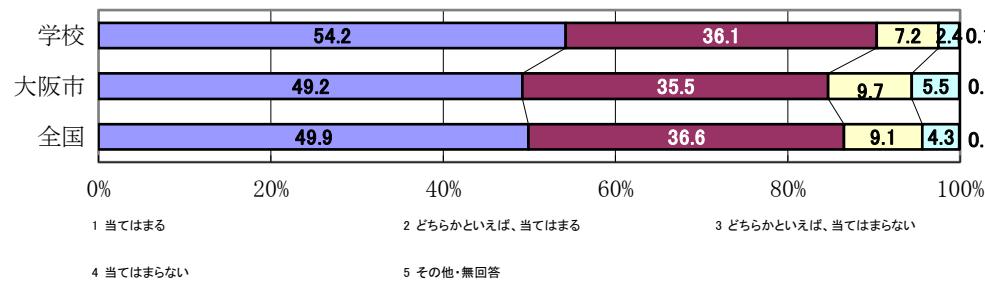
9

いじめは、どんな理由があつてもいけないことだと思いますか



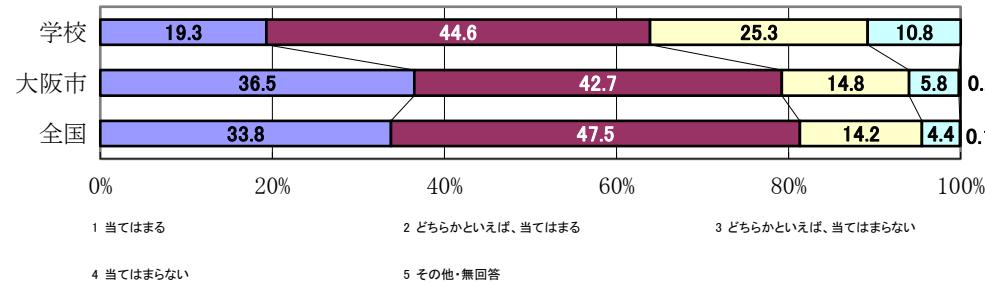
12

学校に行くのは楽しいと思いますか



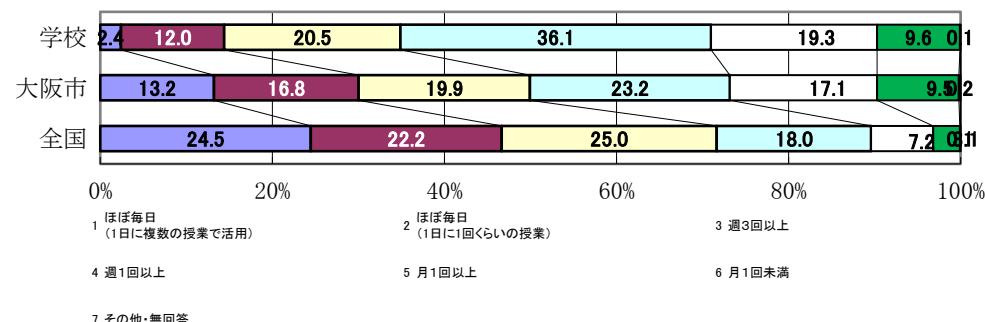
27

地域や社会をよくするために何かしてみたいと思いますか



28

5年生までに受けた授業で、PC・タブレットなどのICT機器を、どの程度使用しましたか



## 学校質問より

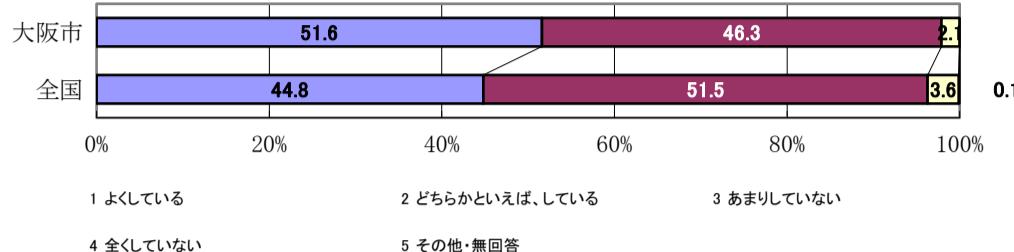
□1 ■2 □3 □4 □5 ■6 ■7 ■8 ■9 ■10

質問番号
質問事項

17

言語活動について、国語科を要としつつ、各教科等の特質に応じて、学校全体として取り組んでいますか

### 学校 「よくしている」を選択

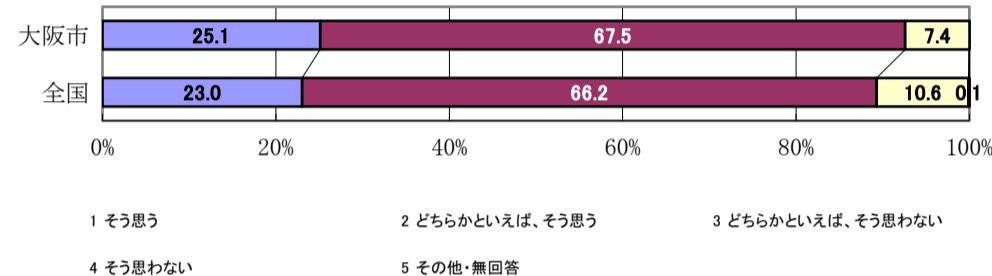


0.1

27

調査対象学年の児童は、学級やグループでの話合いなどの活動で、自分の考えを相手にしっかりと伝えることができていると思いますか

### 学校 「どちらかといえば、そう思わない」を選択

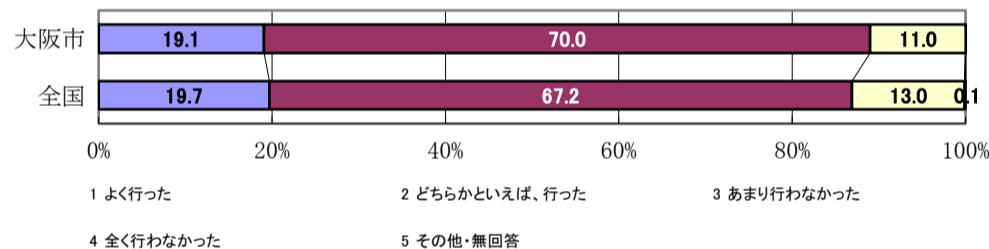


0.1

34

調査対象学年の児童に対して、前年度までに、各教科などで身に付けたことを、様々な課題の解決に生かすことができるような機会を設けましたか

### 学校 「あまり行わなかった」を選択

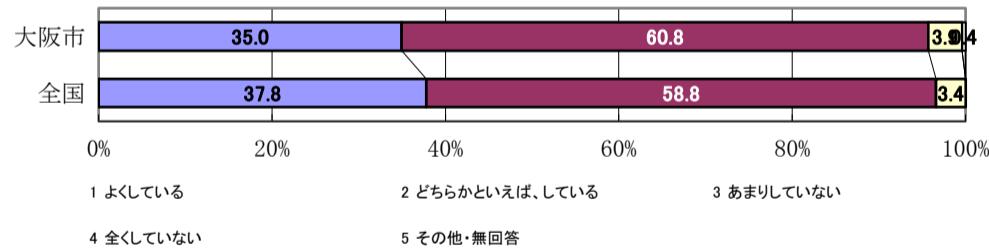


0.1

39

調査対象学年の児童に対して、特別の教科 道徳において、取り上げる題材を児童自らが自分自身の問題として捉え、考え、話し合うような指導の工夫をしていますか

### 学校 「どちらかといえば、している」を選択

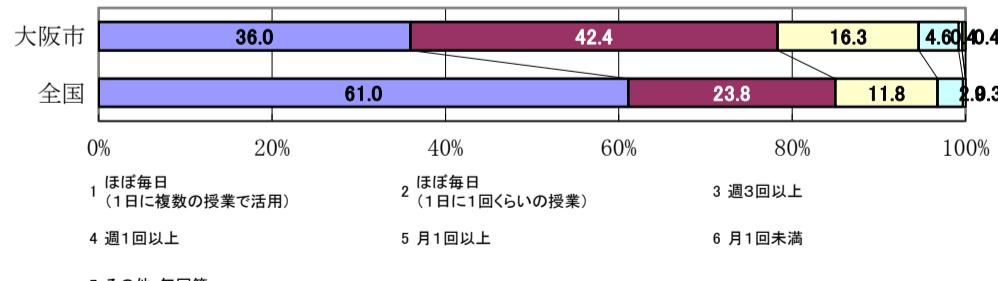


0.4

58

調査対象学年の児童に対して、前年度までに、児童一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器を、授業でどの程度活用しましたか

### 学校 「ほぼ毎日(1日に1回くらいの授業)」を選択



0.4

0.3